

延岡まちゼミ

16日から開講

第4回、22店舗が29講座

予約制、各店で受け付け

店主や従業員が講師となって、生活に役立つ専門知識や技術を教える「延岡まちゼミ」の4回目（16日から始まる。延岡市商店会連合会友井康弘会長）の商店街活性化事業だが、今回から連合会外にも枠を広げ、22店舗が29講座を企画した。複数の店舗がコラボレーションした講座も初開催。すべて事前予約制で、9日から各店で受け付けを始める。

複数店舗の コラボ企画も

延岡市商店会連合会の70周年記念事業を兼ねる。講座の内容はさまざま。毎回人気の美容関係の講座は「美眉づくり」「セルライト除去」など。



「まちゼミに来てくださる」と笑顔で呼び掛ける参加店の店主たち



講座の内容を紹介し合う店主たち

森久きもの学院（祇園町）は夏祭りの季節を前に浴衣の着付け体験講座を企画した。

初参加の川原いちご農園（大門町）はイチゴのソフトクリームを巻く体験。城山ふとん店（大貫町）は自社で製綿した綿を使って「マイ座布団」を作る講座。ガソリンスタンドの小田石油商会（大貫町）は車両のジャッキアップやタイヤの脱着など車のトラブル時に役立つ体験講座を行う。

コラボ講座は二つ。友

井商店（祇園町）と酒のミネタ（大貫町）の「日本酒の話と焼酎の話」では利き酒をしながら友井商店が酒に合うつまみを提案する。友井商店と南九州ビーエムシー（安賀多町）の「70年代のアーティストやアイドルを語ろう」は中央通のカラオケルームで開き、希望者は歌える。

川原いちご農園の川原智子さん（49）は「ソフトクリームの巻き方を体験してもらうだけでなく、イチゴについていろいろ話したい。どんな人に会えるのか、今からわくわくしています」と、開講日が待ち遠しい様子。

吉田貴章実行委員長（41）は「まちゼミはコ

まちゼミ

平成14年に愛知県岡崎市で始まった。受講料は基本的に無料。材料が必要な場合もある。「商品売りつけない」が絶対のルールなので、客は安心して受

講することができる、店側は店主の人柄や店内の様子を知ってもらえる利点がある。現在は全国340カ所以上、県内では高鍋、南宮崎、西都、日南でも開催されている。延岡は平成28年秋から始めた。

コミュニケーション事業。各店舗が一生懸命考えて準備しているの、ぜひ楽しんでほしいと話、多くの受講を呼び掛けた。



延岡市の浦城港に水揚げされた全長3・8メートルのシロカジキ。
左が岩切社長（きょう午前）

定置網に巨大カジキ

延岡市 浦城港 全長3・8メートル、重さ253キロ

全長3・8メートル、重さ253キロの巨大カジキがきょう、延岡市浦城港に水揚げされた。胸びれの特徴などからカジキ類で最大となる「シロカジキ」とみられている。

延岡市浦城町の延岡水産開発岩切幸久社長（きょう）が、南浦の沖合約2キロに仕掛けた大型定置網

にシイラやアジなどと一緒に入った。逃げよと暴れていたが、尾びれにロープをかけて

弱らせながら約30分かけて船に引き上げたという。カジキが船倉からう

に鋭く伸びた上顎は長さ約70センチ、胸回りは一・5メートルもあり、こんな大物は二度とお目

に「かかれぬ」と携帯電話で写真を撮っていた。岩切社長（68）は「昨

日から潮流が早く、マグロが入るのではないかと期待していた。まさかこんな巨大なカジキが入るとは思わなかった」と話し、45年を越す漁業歴で初めて見た大物に興奮気味だった。

宮崎大農学部海洋生物環境学科の村瀬敦宣助教によると、胸びれが固定されていて動かないように見える、体側にしま模様がないなどの特徴からシロカジキとみられるという。

インド・太平洋の暖かい海域に分布する大型のカジキで、県北では「シロカワ」とも呼ばれる。

水揚げされたカジキはあすの競りにかかられるという。